

活動報告書

報告者氏名:根本えり香

所属:茨城県立つくば特別支援学校

記録日:H26年2月14日

【対象児(群)の情報】

・学年

高等部1年女子 肢体不自由教育部門・重度重複教育課程

・障害名

- ①脳性小児まひによる不随意運動を伴う移動機能障害
- ②先天性ミオパチー(筋緊張, 筋力低下, 関節拘縮など)

・障害と困難の内容

身辺処理…常に車いすに乗っており, 排泄・水分補給・食事など全てにおいて支援が必要である。

意思表示…好きなこと(音楽など)に対しては, 笑顔になったり, 笑ったりする。嫌なこと(手を触れられるなど)に対しては, 顔を赤くして怒った表情になったり, 唸り声のような声を出したりする。特に表情や声に反応が出ていなくても, 興味を持ったものに対して, 追視することもある。

知能と学習内容…身体ストレッチや「見る・聞く・触る」感覚を伸ばす自立活動を主とした学習活動に取り組んでいる。

主な障害特性…手の触覚過敏がある。常に「生徒自身の顔付近まで両手を挙げている状態」または「生徒自身の胸元付近にある車いす付属のテーブル上に両手を降ろしている状態」であるため, 肘の関節が拘縮している。基本的に自ら触れようとすることはないが, 意図的に指や腕を動かすことはできる。(例: 食事中に介助者の手を払いのける, 自分の顔を搔くなど)

【活動目的】

- ・**当初のねらい** iPadでアプリを操作したり, 音楽や動画を鑑賞したりすることで, 生徒の興味関心や活動の幅を広げられるようにする。
- ・**実施期間** 2013年5月下旬から2014年2月中旬まで
- ・**実施者** 根本えり香
- ・**実施者と対象児の関係** 学級副担任

【活動内容と対象児(群)の変化】

・対象生徒の事前の状況

- ①体幹の筋緊張を弛める際に, すぐ上体を起こしてしまっていた。
- ②生徒について相手に伝える時は, 教員が口頭で説明していた。

・活動の具体的内容 ※個別課題学習で取り組んだ(約15分:週2~3回)

- ①座位姿勢を保持したり, 体幹の筋緊張を弛めたりする時に, 意欲を引き出すためにiPadを見る。

使用したアプリ

- ・触れると画面が変化したり, 音が鳴ったりするアプリ…My baby Firework, I love fire works lite, Art Lightning, Perlin Draw など
- ・楽器, 音アプリ…axlophone, piano, Zampona, Sirens Xtreme など
- ・歌, 絵本アプリ…ドライブえほん, よみあげえほん, Youtube など



②コミュニケーションブックの活用を通して、色々な人とコミュニケーションをとる。

《コミュニケーションブックの作成手順》※②～④を繰り返し取り組む

- ①自分の顔、好きなことをしている様子を撮る。
 - ②友達や先生に自己紹介をする(=①を見せる)。
 - ③友達や先生にも自己紹介をしてもらい、その様子を撮ったり、編集したりする。
 - ④個別課題学習や休み時間などに③を鑑賞したり、実際に会いに行ったりする。
- 使用した機能とアプリ・・・ビデオ、カメラ、ロイロノート、Elf Yourself



コミュニケーションブック



今回の実践では、「個別課題学習」という場面で、生徒自身の「自己紹介」を行なった。

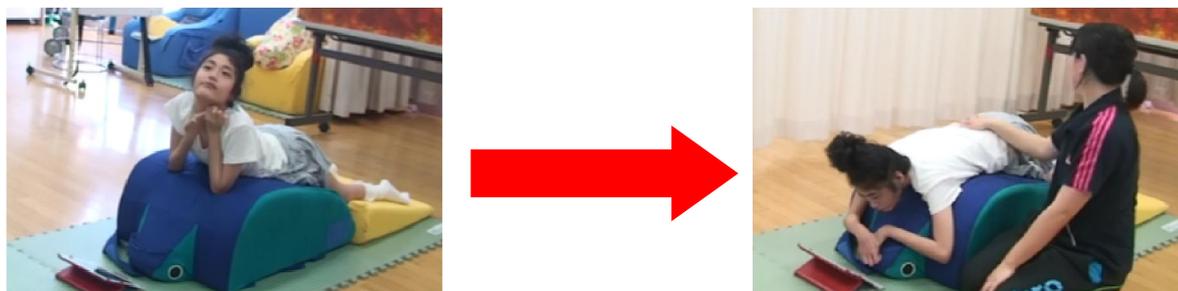
《「自己紹介」で扱った項目と内容》

項目	具体的内容(※基本的に静止画を使用)
①人物の名前	対象生徒(本人)
	学年の先生(4人)
	クラスの友達(4人)
②好きなこと	キャストで回ること(※静止画ではなく動画を使用した)
	音楽を聴くこと

※他にも好きなことはありますが、今回は2つに絞りました。

・対象児(群)の事後の変化

- ①姿勢保持…座位姿勢を保持したり、体幹の筋緊張を弛めたりする際に、iPadを注視することで背中を丸めて、リラックスしている時間が長くなった。



- ②コミュニケーションブック…コミュニケーションブックを見てもらうことで、直接相手に自分のことを知ってもらうことができた。また、やり取りをすることで、人との関わりを広げることができた。

【報告者の気づきとエビデンス】

①姿勢保持

・主観的気づき

iPad で音楽動画や自分や友達、先生の動画を鑑賞できることに気づき、興味関心を持つようになったのではないかと感じている。

・エビデンス

取り組み始めた当初の背中を丸めている時間は5分にも満たなかったが、現在は下方を注視し、10～15分程度背中を丸め続けることができるようになってきた。

②コミュニケーションブック

・主観的気づき

今回の実践の反省を踏まえて、様々な場面でより多くの人と関わったり、自分の意思表示をしたりできるのではないかと感じている。以下の通り、対象生徒に限らず重度重複障害全般を対象とし、自分のことを相手に伝えることを目的とした「コミュニケーションブック・ツール」について構想を立てた。

場所	場面	活用方法
		具体的内容
学校	朝の会 帰りの会	挨拶をする（実態に応じて、選択肢を設定するなど対応する）
		本人の顔写真＋音声
	各授業	本人の様子を記録する ⇒教師側の支援、本人の振り返り、保護者との連携に活かす
		本人や関わっている人の写真や動画
	水分補給	「飲みたいか・飲みたくない」を伝える（実態に応じて、）
		本人の顔写真(快・不快の表情)＋音声＋飲み物の写真
排泄	「トイレに行きたいか・行きたくないか」を伝える	
	本人の顔写真(快・不快の表情)＋音声＋トイレの写真	
給食	「〇〇を食べたいか・食べたくないか」を伝える	
	本人が食べている様子を記録する 本人の顔写真(快・不快の表情)＋音声＋給食の写真	
家庭	家の中 外出先など	本人の様子を記録する⇒支援や学校との連携に活かす
		本人や関わっている人の写真や動画
福祉施設 医療機関	活動中など	本人の自己紹介をする、本人の様子を記録する ⇒支援や学校との連携に活かす
		本人や関わっている人の写真や動画

【今後の見通し】

高等部卒業後には複数の施設に通所する予定であり、限られた行動範囲の中で、余暇活動や意思表示するためのコミュニケーション手段を充実させることが課題となっている。そのため、重度重複障害でも取り組める iPad の活用方法を今後も検討・実践していきたい。